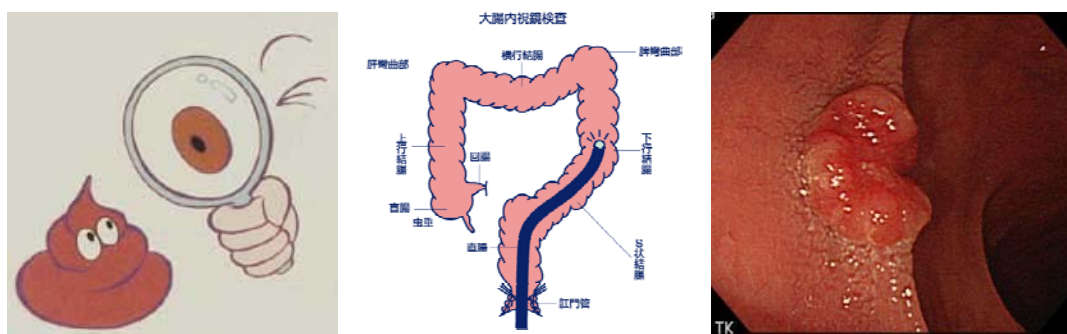


## 便潜血反応が陽性であった受診者の皆様

わが国で大腸癌は罹患率で第2位、死亡率で第3位であり、過去20年間増加傾向にあり、現在も増加の一途をたどっています。大腸癌の増加には肉や脂肪の増加、野菜摂取の減少など食生活の関与が考えられています。しかし、それ以外に両親、兄弟などに大腸癌の方がいれば危険度は数倍になり注意が必要です。

便潜血反応は便中の血液（ヘモグロビン）を検出することにより大腸癌を発見する方法です。2日法では1回でも陽性反応がでた方は精密検査の対象となります。精密検査の方法としては現在、全大腸内視鏡検査が推奨されています。理由は検査精度が極めて高いことと、検査時に病変が発見された場合にその場で内視鏡的切除や生検が可能であることです。

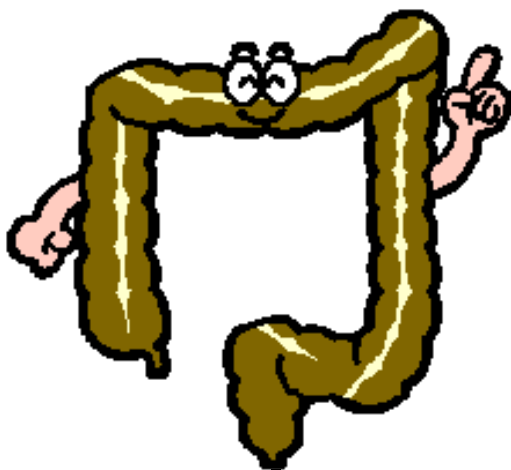


便潜血反応→全大腸内視鏡検査→大腸癌発見

大腸癌が発見される可能性は1%前後ですが、大腸ポリープは約30%以上の人に発見されます。大腸癌はその多くが腺腫性ポリープ(良性)の一部が癌化することにより発生すると考えられており、腺腫性ポリープの切除により大腸癌の発生が減少することが証明されています。また、一部にポリープを経ずに癌が発生する陥凹型癌(デノボ癌)が存在し内視鏡でなければ発見困難です。従来、注腸X線検査も行われていましたが、検査精度が低いために一部の大腸内視鏡挿入困難な方にしか行っていません。

大腸癌は早期で発見されれば予後良好であり、進行癌であっても根治手術が可能であれば完治する可能性が高い癌です。しかし、現在、大腸癌検診(便潜血反応)受診率が低く(20%以下)、さらに検診陽性者の精検受診率が低い(60%台)ことから死亡率の減少には至ってありません。

大腸癌の早期発見、早期治療のために全大腸内視鏡検査による精密検査をお奨めします。



コロン君